

先生のオススメ！旅と冒険篇

展示期間： 2013年7月1日 〜 8月30日



出展資料リスト

映像表現学科

金子照之先生のオススメ！

境界線の旅
坂根徹夫／著　朝日新聞社
図書　請求記号： 702.06 / SAK

吉田雅則先生のオススメ！

約30年前にまとめられたコラム集で、今となっては懐かしい記述もあるが、知らない人には芸術工学的な歴史書として楽しめるかなあ。様々な領域の相互作用による創造的な試みが随分昔から続いていることを再確認できる。レーザーやコンピュータがアートに利用され始めた頃の、芸術と科学の境界に沸き上がってくる様々なオブジェやインスタレーション、知的好奇心による新たな視点、実験的活動のレポートは興味深い。何かありそうな未知の領域への航海誌のようだ。「これからも実験精神を持ち続けて創造活動が続けられるよう、心からの声援を送ります」—あとがきより

吉田雅則先生のオススメ！

ガンバの冒険【テレビ版】
出崎統／チーフディレクター
DVD　請求記号： A778.77 / GAN /1~5

吉田雅則先生のオススメ！

ガンバの冒険【テレビ版】
出崎統／チーフディレクター
DVD　請求記号： A778.77 / GAN /1~5

若い世代の皆さんにとっては、「ガンバ」と聞いてすぐに連想するのは、きっと大阪にあるサッカーチームの名前でしよう。しかし我々の世代では、この、個性的でかわいらしいネズミたちが傷だらけになって冒険を繰り広げるテレビアニメーションが頭に浮かんできます。私も子供だった頃、毎週の放送を心待ちにし、登場するキャラクターに自分をなぞらえて一緒に冒険を楽しんだものでした。古いけれど、それを感じさせない、これぞ不朽の名作と言ってよい作品だと思います。映像演出的な側面からも非常に優れており、見るべき点は沢山あります。映像のプロにもファンが多い作品であるというのも納得です。

※「ガンバの冒険」【劇場版】
出崎統、大賀俊二/監督　A778.77/GAN/6

まんが表現学科

橋本英治先生のオススメ！

ふらり。
谷ロジロー／著　講談社
まんが　請求記号： C726.1 / TAN

旅をする人を英語でTravelerと言ったりTouristと言ったりします。この二つの用語は旅のあり方を明確に区別しています。例えば、旅を目的とする人と目的地を目指す人の違いといってもいいようです。しかし、ここで、無駄な講釈を述べるよりも、「ふらり」と外に出ることが、本来の旅の醍醐味かもしれません。『ふらり。』は伊能忠敬をモデルに、壮大な企ての一步手前、「ふらり」と江戸を歩くことが夢想されています。「ぼちぼちゆけばよい」、「ゆる〜り」、「ゆるりと」、「ともかく前へ、前へ」。そして、疲れた時は腰を掛けて、物を食べる。そのゆるやかな態度が偉業『大日本沿海輿地全図』へと結実します。（地図は国土地理院古地図コレクション、The Library of Congress で、見ることができます）

西村太一先生のオススメ！

西村太一先生のオススメ！

ハックルベリ・フィンの冒険
マーク・トウェイン／著　角川文庫
図書　請求記号： B933 / TWA

波瀾万丈のドタバタ喜劇で、ハックと逃亡奴隷ジムとともに読者は楽しく、またスピード感をもってミシシッピ川を下ってゆく。しかし彼らが陸地に寄るたびに会おう人びとの頑迷さーシェパードソン家での物語ー、悪人のえげつなさー王様と公爵の物語ーなどは、人間性分析の点で少年物語の枠を超えている。家庭崩壊、差別、犯罪等にも遭遇する。苦いテーマだが、たとえばジムの娘リサベスへの折檻を語る回想話のうちに、われわれは至純の魂の叫びを聞くことができるだろう。この作は、『ガリヴァー』と同様に、今こそ（大学生になった今こそ）読んでほしい物語。

基礎教育センター

山崎均先生のオススメ！

地図のない道
（「須賀敦子全集第3巻」河出書房新社　所収）
須賀敦子／著　新潮文庫
図書　請求記号： 918.68 / SUG / 3

水晶のようなエッセイ。須賀は長く暮らしたイタリアと日本のあいだを、旅した。この作品のなかでは、水都ヴェネツィアはいつのまにか大阪のざわめきとなり、かつての祖母の嘆きが突然に想い出されてしまう。古い教会も聖像もユダヤ人のゲッターも、観劇の体験も、何もかもが淡々と描きだされた。人々は須賀の文体に驚き、次いでその断片を反芻し、さらに須賀の旅をなぞる人も現れた。この本の、しんとした気配、閉じられたままの頁の佇まいは、特別なものだ。それははっきりしている。

久富敏明先生のオススメ！

世界でも生き残る完全サバイバル術

自分を守る・家族を守る
マイケル・S・スウィーニー／著
日本ナショナルジオグラフィック社
図書　請求記号： 369.3 / SWE

世界でも生き残る完全サバイバル術

「旅と冒険」とは、自らの、そして同行者の命を守る技術を身につけている事が必要条件と言える。その技術こそが私たちを南極やエベレスト、そして月面にまで到達させてきた。そして今日、私たちはその技術を習得する訓練を乗り越えることが出来れば、月を含む地球圏のほぼどこへでも行く事が可能となった。では今、どこに「冒険」を見いだす事が出来るだろう。そのひとつとして災害時に如何に命を守るかが大きな課題となっている。本書は、地球上の様々な場所と自然災害時に命を守る技術を知ることが出来る実用書である。

ファッションデザイン学科

ばんばまさえ先生のオススメ！

見仏記
いとうせいこう、みうらじゅん／著　角川文庫
図書　請求記号： B718 / ITO / 1

この本の中で、いとうさんとみうらさんは愛する仏像のことをものすごく自由に、自分の言葉で表現している。文化や歴史といった背景に思いを巡らしながら仏像に直面した時の感動を語る、ちょっと理屈っぽい、いとうさん。興福寺のあの有名な仏頭を「加藤登紀子」と一言、超感覚的なみうらさん。（けれど彼は小学生のころからの仏像マニア）これが宗教でも美術でもない見仏人としての視点なのだ。何百年も前に仏教世界の観念が形象化されて生まれた仏像の姿かたち。昔の人々の想像力は、現代人のそれを軽く超えていると言う。いつか私も二人のように、気の合う仏友と語り合いながら日本各地を旅してみたい！

松永彩先生のオススメ！

河童が覗いたニッポン

河童が覗いたニッポン
妹尾河童／著　新潮社、新潮文庫
図書　請求記号： 049.1 / SEN

河童が覗いたニッポン

この夏に旅行に行く人や、普段から博物館や工場見学などが大好きな人にお勧めします。でも実は、本があまり好きでない方にもおすすめ読みやすい本です。

河童が覗いたニッポン

河童が覗いた…シリーズは、著者の妹尾さんが前から気になっていたお出掛けスポットや覗いてみたいけど素人には入れない（汗）…、な施設等を天井から覗いたような間取り図と共に、歴史、社会背景などを考察しながら、それはそれは几帳面に書かれたものです。（文章も手書き！？）でも妹尾さんのお人柄か、味のある画風のせいか、とっても読みやすい。そしてちょっといつもの旅行やお出かけとは違ったプランを立ててしまいたくなるそんな本です。

河童が覗いたニッポン

このニッポンの他にインド、ヨーロッパシリーズもあり、その方面に旅に行くときはそちらのシリーズもお薦め！

※「河童が覗いたインド」　B292.5/SEN
※「河童が覗いたヨーロッパ」　B293.09/SEN

先生のオススメ！旅と冒険篇

展示期間： 2013年7月1日 〜 8月30日



ビジュアルデザイン学科

寺門孝之先生のオススメ！

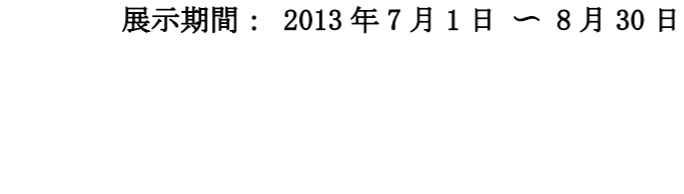
高丘親王航海記
澁澤龍彦／著　　文藝春秋、文春文庫
図書　請求記号： 913.6 / SHI

初読は単行本が出てすぐなのでもう25年以上になる。4〜5年に一度は読み返したのではないか。自分の状況が切迫してきて、新しいところへどうしてもジャンプしたくなったとき、高丘親王の日本から天竺へ向けての旅はいつも、僕に希望と冒険心と勇気を、うっとりするような甘味な夢心地と、はっと背筋を正さずにおれない清清しさとともに贈り物されてきた。かつては想像の域にとどまった親王の老いの苦味も爽やかさも今は切々と迫る。若い方々、まずは一読を。そしてまた後年、再読をオススメします。

廣中薫先生のオススメ！

Les nymphéas：Monet grandeur nature
Michel Draguet／著　　Hazan
図書　請求記号： R723.35 / MONd

この本は、画家クロード・モネの睡蓮の画集です。以前、印象派誕生の軌跡を追う仏ノルマンディーへの旅で見つけた一冊。一筆一筆拾われた見事なタッチ！モネの息遣いライブペイント的速度感・・・全てがリアルに迫り、微睡む様な光／変化する色／生命感溢れる絵画空間、とにかく魅了。荒い一筆から小さな池の波紋や揺れる木々の葉が、「読む」ことで見る側へ同化される。セレクト画像からの入り易いモネ世界／大判サイズ画集に、更にポスター状作品群が収められ、開くと新たな睡蓮が次々出現（!!!）大胆な編集構成・形態アイデアは画家の特徴を強調する作り。もうすぐ睡蓮の季節。この画集で是非一瞬モネの庭への旅へ。****また、現在開催中「奇跡のクラーク・コレクション展」**（兵庫県立美術館）にて「海景・嵐」等モネ作品が展示されています。この荒い波の一筆も大胆素晴らしく!!共に、印象派を追うイメージの旅へも・・・!



プロダクトデザイン学科

相良二郎先生のオススメ！

冒険手帳：火のおこし方から、イカダの組み方まで
谷口尚規／著、石川球太／画
知恵の森文庫（光文社）
図書　請求記号： B786 / TAN

冒険とは「危険を冒す」ことだが、文明は危険を無くす方向に進化を遂げてきた。現代の日本社会では過度と言えるほど日常生活の中から危険が排除され、冒険も排除されている。しかし、災害時には日常の安全は消失し、誰もがサバイバルを余儀なくされる。一本のナイフとロープを使いこなすことができれば、そこらにあるものから火をおこしたり、食料を確保したりもできる。山の中なら蔓性植物からロープの代わりも調達できる。自然の中の毒や薬に関する知識も、それらを遠ざけていては身につかない。天候に関する知識や方位に関する知識は経験を伴うことで知恵に変わる。モノづくりの原点を捉えるためにも冒険してみよう。

田頭章徳先生のオススメ！

深夜特急　　1〜6
沢木耕太郎／著　新潮文庫
図書　請求記号： B915.6 / SAW /1〜6

インドのデリーからロンドンまで、バスだけを使って旅をする「私」（沢木耕太郎自身）の物語。日本から飛行機で香港等を経由してインドまで、そしてここからの陸路でのユーラシア大陸横断の旅を、リアリティあふれる描写で描いていく。刊行後、バックパッカーのバイブルとして扱われた同書を大学生の時に読んだ僕をはじめとした何人もの同級生が、その夏まんまと熱病にかかり、バックバックを背負って未知なる海外に旅に出た。そんな魔力を持ったこの本を読んで、是非、今しかできない旅に出て欲しい。学生時代に海外に旅に出ていなければ、自分はずいぶんとくだらない人間になっていたと思う。

先生のオススメ！旅と冒険篇



環境・建築デザイン学科

花田佳明先生のオススメ！

『建築 MAPOO』（TOTO 出版）や『ヨーロッパ建築案内〇〇編』（TOTO 出版）などの建築ガイドブック
図書

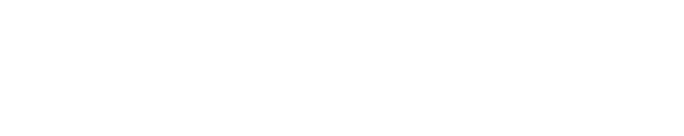
私が初めて外国に行ったのは修士課程1年の春休み。同級生3人とのヨーロッパ40日間の旅だった。リュックに入れたのは当時日本語で書かれたおそらく唯一の建築ガイドブック『ヨーロッパ建築案内』（東大建築学科香山研究室、1978年）。今見るとよくこれで行けたなあと思うような地図が載っている。何しろ情報が少なく、互いに別行動をとって宿に戻り昼間訪れた建物の様子を言い合ったところ、同じ建物のはずが全く別のものを見ていて驚いたことがある。建物名についての町の名前だけを頼りにひとりイタリアの田舎駅に降り、外観を絵に描いて地元の人にバイクで連れて行ってもらったりもした。そういう経験からすると、現代の国内外の建築ガイドブックの充実ぶりは隔世の感。まずはそれらの頁を繰るところから始めよう。よい旅を！

長濱伸貴先生のオススメ！

記憶に残る場所
D・リンドン、C・W・ムーア／著　鹿島出版会
図書　請求記号： 520.4 / LYN

人生の中でずっと忘れ得ない旅先の風景というものが誰にでもあるものだ。平穏な日常生活のふとした折に、思いがけず脳裏に浮かんでくるあの映像のことである。さらに映像とともに、照りつける日射しや心地よい潮風、まったりとしたビールの味など、当時の感触までもが生々しく甦る。アセキアの中庭、カンポ広場、紫禁城、セントラルパークなどが僕にとっての記憶に残る場所である。本書は、二人の建築家が世界の都市や建築、広場や庭園を巡り、記憶に残る場所の専門的な考察を交わした書簡をまとめた本である。学生諸君がそれぞれの専門知識を駆使しながら、記憶に残る風景を読み解く冒険へ出かける際の参考書の一冊となれば幸いである。

先生のオススメ！旅と冒険篇



クラフト・美術学科

友定聖雄先生のオススメ！

永遠の0
百田尚樹／著　　太田出版（単行本版）
　　　　　　　講談社文庫（文庫版）
図書　請求記号： 913.6 / HYA

「冒険」とは、大きなリスクを覚悟の上で、事を成し遂げようとする事である。そのような意味から、この物語も「冒険小説」と言えるのかもしれない。普通の人たちが歴史の渦に飲み込まれ、いやおう無しに「命」をかける立場におかれる。「冒険」と言うには、あまりにも生々しく、悲惨であり、悲しくもあるが、人々に与える感動は、先日80歳でエベレスト登頂の三浦雄一郎氏の事と何ら変わりはない、その時代の若者が、何を思い、考え、何の為に「命」をかけたのか？決して他人事でなく、私たちにも共感出来る「冒険」がこの物語にはある。

安森弘昌先生のオススメ！

イントゥ・ザ・ワイルド
ショーン・ペン／監督・脚本
DVD　請求記号： A778.253 / INT

学業も優秀で、経済的にも恵まれたクリス・マッカンドレスという若者が、大学を卒業するとすべてを投げ捨てて旅に出てしまう。そして、2年後、アラスカの荒野でただ一人死んでいるのが発見される。冒険家ジョン・クラカワーは、クリスの足跡を丹念にたどり、ノンフィクション小説「イントゥ・ザ・ワイルド」を書き、それを読んだ俳優ショーン・ペンが脚本を書き下ろした。2年間、青年はバックパック1つだけで移動に移動を重ねていく。そこには深い自然と深い人情が横たわっている。砂漠、溪谷、雪原。ヒッピー、豪放な農場経営者、孤独な老人。やがて死を迎えてしまうクリスがアラスカの大自然の中でつかんだこととは・・・